

新除草・調節剤

UC - 22463 粒 剤

(取扱メーカー) 長瀬産業株式会社

対象作物：水田裏作麦（平畦栽培）

性状・作用特性：本剤の有効成分は，3，4-ジクロロベンジル-N-メチルカーバメイトで，剤型は5%粒剤である。

本剤は非ホルモン型の移行型除草剤で，その殺草作用は，土壌表面処理あるいは雑草莖葉処理によって，幼植物体内での葉緑素合成を阻害することによっておこなわれる。

雑草種類に対する選択殺草性は，イネ科に大，広葉にやゝ小の傾向にある。雑草種類別ではスズメノテッポウに大きく，ノミノフスマ・ヤエムグラ・イヌノフグリ・ハコベ等には劣る。

麦に対する薬害は，使用方法によって生ずることもあり，その症状はクロロシスなどをおこし，生育障害がみられるが，後回復し，収量にはあまり影響しない。

人畜毒性は，マウス経口毒性， $LD_{50}=1.620\text{ mg/Kg}$ と安全である。

使用方法：今回実用化が認められたのは，水田裏作麦の平畦栽培を対象とした播種後土壌処理用としてである。使用量は10アール当り製品4Kgで均一に散布する。

使用上の注意：本剤は，土壌が乾燥していると効果が劣るので湿潤な水田で，かつイネ科雑草の優占圃場での使用が有効である。

粒剤であるからまきむらがあると薬害を生じやすいので，特に均一散布する。

H - 669 乳 剤

(取扱メーカー) 丸和物産株式会社

対象作物：麦

性状・作用特性：本剤の有効成分は，イソプロピル-N-(3-クロロフェニル)カーバメイト(CI-IPC)85%と，(3，4-ジクロロフェニル)-1-メトキシ-1-メチルウレア(リニュロン)15%との混合粒剤である。

母剤のCI-IPC，リニュロンは，両者とも既に単剤でも麦圃の播種後土壌処理剤として実用化されているが，混合剤とした理由は，リニュロンがスズメノテッポウにやゝ効果の劣る点をCI-IPCによってカバーしたものである。

両母剤とも非ホルモン型移行型除草剤であり，その作用特性は既によく知られているのでここでは省略する。

人畜毒性は，CI-IPCがマウス経口毒性 $LD_{50}=3,800\sim5,000\text{ mg/Kg}$ ，リニュロンが同 $4,000\text{ mg/Kg}$ と両者とも殆んど無害である。

使用方法：今回実用化が認められたのは，洪積火山灰土地帯における水田裏作麦および畑作麦を対象としてである。使用時期は播種後，使用量は10アール当り製品150～200gで，70～100ℓの水にとかして均一に散布する。

使用上の注意：リニュロン単剤と同様に覆土